
159話 もしかしてうちのにも

吉川明人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

159話 もしかしてウチのにも

【Nコード】

N6861S

【作者名】

吉川明人

【あらすじ】

目が覚めたとたん、さっきまで見てた夢の内容をすっかり忘れてしまうのは誰もが経験してる当たり前のこと。だけどそれは……

目が覚めたとたんに、ついさっきまで見てた夢の内容をすっかり忘れてしまうなんてこと、多くの人が経験してるよね。

密林の奥にひっそり暮らしてるまだ文明人と一度も出会ってない人も、人工衛星に乗って地球を外から見てる宇宙飛行士でもそれはみんな一緒なんだ。

だから珍しくも何ともないと世界中の人が考えてて、どうしてそうなるかは誰も不思議に思わない。

ボクたちにとっても、そのほうがいいんだ。

だって、もし夢を忘れない装置なんて発明されてしまったら、ボクたち夢を食べる『バク』は生きられなくなってしまっただもの。

昔はボクたちと人間は、怖い夢を見てくれるのと、それを食べてあげること仲良く付き合ってたんだそうだ。

だけど、人間の夢がだんだんボクたちでさえ食べられないくらい怖いものになったので、目覚める直前の浅い眠りの夢しか食べられなくなっただとおじいちゃんが教えてくれた。

ボクは今、多くの仲間がそうしてるように『目覚まし時計』の中に暮らしてる。

ここだと目が覚めたばかりの人に近くて、何よりこんな所にボクたちが隠れているなんて思いもしないだろうから。

だけど今のボクたちはとっても弱い力しかないから、人間に見つかること「あれ、夢だったのかな？」と思ってる間に消えてしまっただ。

だから、あなたがいつも使っている目覚まし時計を乱暴に扱ったり、急に分解したりしないでね。

お願いだよ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6861s/>

159話 もしかしてウチのにも

2011年10月6日20時46分発行